



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学中央図書館における
学習支援への取り組みについて
～ラーニング・スクエアでの活動から～

筑波大学附属図書館 情報管理課
(企画渉外担当) 福井 啓介

IMAGINE THE FUTURE.

今日のお話

- はじめに
 - ・自己紹介、2つのキーワード
- 筑波大学中央図書館での実践
 - ・筑波大学附属図書館の紹介
 - ・ラーニング・コモন্ズの検討
 - ・コンセプトは**KaleidoSpace**
 - ・ラーニング・スクエア始動
 - ・学生が主役になれる環境、主体的にやれる環境
- 最後に

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

自己紹介 & 今回の参加の理由

- ・1988年(昭和63年) 図書館情報学入学
- ・1992年(平成4年) 筑波大学図書館部情報システム課(情報処理係)以降 サービス係、収書計画係、雑誌受入係、図書購入係、で
- ・2009年(平成21年) 筑波大学附属図書館情報管理課企画渉外係長～現在まで同職

担当: 学外諸会議(図書館団体の)渉外事務、**広報、研修、実習(インターンシップ)**、その他なんでも

附属図書館館内WG:
ラーニング・スクエア運営WG

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

2つのキーワード

- 実学
「図書館(情報)学は実学である！」
実学＝社会生活に実際に役立つ学門。
医学・法律学・経済学・工学など。(大辞泉より)
- ラーニング・コモন্ズ
「図書館機能、情報技術、その他のアカデミックサポートを統合したもの」(McMullen Susan)

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・コモন্ズ的図書館 増加中

- お茶の水女子大学、名古屋大学、金沢大学、**筑波大学**、大阪大学、広島大学、静岡大学、新潟大学、千葉大学、東北大学、(山口大学、茨城大学、新潟大学)
- 首都大学東京
- 国際基督教大学、東京女子大学、立命館大学、明治大学、立教大学、上智大学、法政大学、(同志社大学)

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・コモন্ズ 需要の素地

- 文科省・中教審の動向＝企業が求める人材(学士力)
主体的な学び、教育の質向上、単位の質の国際化
学修時間の増加、課題解決型、課題探究能力、FD、アクティブ・ラーニング

「主体的な学修を支える**図書館**の充実」

「学生の主体的な学修ベースとなる**図書館**の機能強化」

※「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」(8月28日)

※「第2期教育振興基本計画(審議経過)」(8月24日)

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・コモন্ズの増加背景(福井的観察)

- **図書館の増改築(震災以降)** *主に国立
- **大学の思惑(経営観点として)** *主に私立
全学生を対象とした新規企画が思い浮かばない時
人や部署を増やさないが、お金はある時
「図書館にラーニング・コモنز 作っちゃえば？」
(図書館が大学のアピール所として使えと判断)
- **図書館側の思惑** *国公立問わず
執行部にアピールできるチャンス、予算がもらえるかも！
「ラーニング・コモنزを図書館に！」

7

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学中央図書館の実践報告

ところで、 筑波大学附属図書館の事を どれくらい知っていますか？

8

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学附属図書館の紹介1 概要

筑波大学附属図書館は、中央図書館を核として、体育・芸術図書館、医学図書館、図書館情報学図書館、大塚図書館の専門図書館4館、計5館体制で組織・運営している。

(大きな特徴)

- ・開館以来、**全面開架方式**の採用
- ・資料の**集中管理**
- ・**図書館ボランティア**の導入(平成7年)*
国立大学図書館では初
- ・**カフェテリア**の導入(平成20年)*
STARBUCKSは大学図書館では初
- ・**ディスカバリー・サービス**の開発(平成22年)

9

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学附属図書館の紹介2 統計1

資料

	和書	洋書	合計
図書 所蔵冊数	1,519,409	1,003,176	2,522,585
図書 年間受入タイトル数	21,481	8,417	29,898
雑誌 所蔵タイトル数	16,813	13,324	30,137
雑誌 継続受入タイトル数(冊子)	7,483	3,196	10,679
電子ジャーナル 提供タイトル数	—	—	約14,000
データベース	—	—	81

国公立で16位、
国公立で11位

利用状況

	利用状況	利用状況
入館者数	(平日)	873,241人 1日平均3,685人
	(土・日・祝)	142,911人 1日平均1,662人
館外貸出図書	398,517冊 1日平均1,234冊	
文献複写	学外へ依頼 18,412件	学外へ提供 4,552件
相互貸借	学外へ依頼 2,642件	学外へ提供 2,771件
レファレンス	37,987件	1日平均 115件

国公立で12位、
国公立で5位

10

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学附属図書館の紹介3 統計2

機関リポジトリ

収録件数	22,000件	国内で7位
セッション数	250,183回	
ページビュー数	686,893ページ	

施設環境

	中央	体育・芸術	医学	図書館情報学	大塚	合計
建物面積(m ²)	19,092	3,518	2,793	3,166	1,105	29,674
閲覧座席数	646	423	352	218	171	1,810

国公立で5位、国立で1位

資料費・運営費

費目	金額(千円)
図書館資料費	633,991
管理・事務費	163,693
合計	797,684

11

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

筑波大学附属図書館の紹介4 耐震改修工事

中央図書館 2階

- ◆**キャレルデスク**
机の角度・仕切り等の個人学習に配慮した設計
- ◆**POスペース**
全学計算機システムのPC6台を集中的に配置
- ◆**スタディスペース**
学習に集中できるよう落ち着いた雰囲気のあるスペースに各席に仕切りのある机を100席設置
- ◆**ラーニング・スクエア**
- ◆**レファレンスデスク**
- ◆**マイカフェ**
- ◆**MMI**
- ◆**STARBUCKS COFFEE**

12

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

命題「ラーニング・コモンズ計画」

「あなたなら、
どんなラーニング・コモンズを
つくりますか？」

13

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

命題「ラーニング・コモンズ計画」

筑波大学第2期中期目標・中期計画(平成22年度～27年度)
附属図書館が関連する中期目標・中期計画(平成21年度内に策定)

【中期目標】
IV自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標
地域にも開かれた大学の最先端の**知識情報基盤**としての**附属図書館**の機能を充実させる

【中期計画】
つばりポジトリの充実等の学術情報基盤としての機能、**学生の学習の場**としての機能、地域の知的活動の拠点等、附属図書館の今後の方向性を総合的に検討し、その高度化を実現する。
6年間の内に、ラーニング・コモンズを計画、実施、検証することに

14

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・コモンズ検討1

【ラーニング・コモンズ検討WG】
* 平成22年度より館内職員による検討WGを設置

(活動内容)

- ・国内・海外の大学の先例調査
- ・学内教員・関係部署とのヒアリング
- ・教員のFD研修会などに参加
- ・ブレインストーミング

↓

筑波大学において**ふさわしい理想**について検討

15

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・コモンズ検討2

【課題続出】 *検討当初

- ・学内教員・関係部署とのヒアリング
 - 精神的支援のみ。明確な協力は得られない
- ・教員のFD研修会などに参加
 - 新しい学修スタイルに積極的な教員が少ない?
- ・環境整備のための工事や什器の検討
 - 耐震改修工事後のため、変更や予算が厳しい

筑波大学において**ふさわしい理想**について検討
現在の環境で、できる事を考えよう!
やれることは始めよう、やれることは全てやろう!

16

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・コモンズ検討3 プレスト資料

17

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

KaleidoSpace (ラーニング・コモンズのコンセプト)

KALEIDOSPACE
カレイドスペース

Kaleidoscope(万華鏡)+Spaceの造語
あなたのスタイルに合わせて**千変万化**する**万華鏡空間**

- ・中央図書館ラーニング・コモンズ・コンセプト
- ・多様な学習スタイルや目的
- ・それに応じた多様な利用スタイル
- ・構成要素は一緒だが、使う人によって姿を変える = **万華鏡**のイメージ

18

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・スクエア始動1 概要

ラーニング・スクエア エリアマップ

2013年度「ラーニング・スクエア」の概要

- ラーニング・スクエア(1F)** (水曜閉館)
 - ① 2階の「ラーニング・スクエア」(水曜閉館) (1F・2階) (水曜閉館)
 - ② 2階の「ラーニング・スクエア」(水曜閉館) (1F・2階) (水曜閉館)
 - ③ 2階の「ラーニング・スクエア」(水曜閉館) (1F・2階) (水曜閉館)
- ラーニング・スクエア(2F)** (水曜閉館)
 - ④ 2階の「ラーニング・スクエア」(水曜閉館) (1F・2階) (水曜閉館)
 - ⑤ 2階の「ラーニング・スクエア」(水曜閉館) (1F・2階) (水曜閉館)
- ラーニング・スクエア(3F)** (水曜閉館)
 - ⑥ 2階の「ラーニング・スクエア」(水曜閉館) (1F・2階) (水曜閉館)
 - ⑦ 2階の「ラーニング・スクエア」(水曜閉館) (1F・2階) (水曜閉館)

19

ラーニング・スクエア始動2 学生サポートデスク

【学生サポートデスク】

レポートを書いているのですが、
ほとんどまらなく困っています。

大学院生をチューター同等の雇用形態で「ラーニングアドバイザー」として配置し、学習相談に対応

Bookお勧めの図書

スタッフの在籍表

20

ラーニング・スクエア始動3 ライティング支援

【ライティング支援】

- ・テクニック取得の為の図書の配置 『アカデミックスキルズ図書』
- ・ライティング支援セミナー 実施 『知識と言葉をめぐる冒険』 図書館職員と教員とのコラボ # 協力してくれる教員が見つかりました！！
- ・ライティング支援の行うための講習会を実施 職員、院生スタッフのスキルアップの為の研修

アカデミック・スキルズ図書

21

ラーニング・スクエア始動4 ライティング支援講習

知識と言葉をめぐる冒険

このようにお楽しみ、読みたいこと、読むこと、書くこと、大学で学ぶべき言葉の力、自分の考えを表現する、読者を魅了する表現力、

図書館員と教員の協働作業(企画、内容等を一緒に検討)

22

ラーニング・スクエア始動5 プレゼンテーションエリア

プレゼンテーションエリア
学生を主体とした企画展示が行えるスペース

23

学生が主役になれる環境 プレゼンテーションエリア

理数系学群生(学部生)1~3年生による研究成果ポスター展示

(来場者の感想・意見)

- ・「えっ、こんなの2年生が作れるの？ やばくね？」by 院生
- ・「1年生からこんな事(研究)出来るんだ、凄い。」by 高校生
- ・「文系も負けてないよ！」by (おそらく)文系学生のメモより

学生の成果を見せる事により、他の学生への刺激となる=見える化の効果

24

学生が主体的にやれる環境1 MMIとは？

Monday Morning Institute

- 毎週、月曜日の朝8:00-30(朝食の時間)
- 気軽な異分野交流の場
- 気軽 = 立ち見 + 参加自由 (カフェの待ち時間や授業前の時間)
- 15min程度のプレゼン&15min程度の
- 人目に触れる場所 → 筑波大内の学術的な雰囲気向上
- 学生団体TGNが企画運営

学生作成プレゼン資料より

25

学生が主体的にやれる環境2 MMIイメージ



学生作成プレゼン資料

26

学生が主体的にやれる環境3 MMI

MMI 大学院生による異分野研究交流(辻プレゼン)

企画・運営: 大学院生
 スピーカー: 大学院生
 聴衆者: 誰でもOK



H23. 9-開始
 聴衆は平均10人前後
 *重要なのは、プレゼン後の質問・意見交換

27

学生が主体的にやれる環境4 学生との協働

学生団体TGN(つくば院生ネットワーク)との邂逅



教員との連携(授業)がきっかけ
 『異分野コミュニケーションのためのプレゼンバトル』

図書館長に直談判(プレゼン)し、許可を得る。
 彼ら(院生)の言
 『本当は場所は何処だって良いんです。でも、図書館が一番、誰でもアカデミックな場所だと感じると思う。』

28

ラーニング・スクエアを演出する企画

蔵書を活用した本を見(魅)せる展示

- 「学長・理事の本棚」
- 「男女共同参画の本棚」(教員持ち込み企画)
- 「震災から学ぶ本棚」(震災後1年企画、セミナーなど)
- 「学習支援の本棚」(ブクログのリアル展示)



29

これまでの取り組み

- 大学院生による学習相談対応(学生サポートデスク)
- アカデミック・スキルズ図書の本棚設置
- 学生の成果物の展示(プレゼンテーション・エリア)
- 教員とタッグを組んだライティング支援講習会
 (「知識と言葉をめぐる冒険」)
- 学生団体の異分野交流の場の協力(MMI)
- ブックトーク(大学祭での学生団体とのコラボ)
- 本・図書館をテーマにした実験的空間演出
 (大学祭での学内研究室とのコラボ)
- 蔵書を活用した本を見せる展示(「学長・理事の本棚」)

場の雰囲気作り

30

ラーニング・スクエア 運営から得た知見1

*注 福井個人の見解

「ラーニング・commons、学習支援は図書館で行う必要があるのか？」という疑問は当初からずっとあった。

しかし、活動を通してこのように考えるようになった。

○ 大学の原点、図書館の原点は？

- 大学は勉強する所、研究する所、
- 図書館はそれを体現化できる場所
- 図書館は親しみやすい場所
- 図書館はアカデミックを感じられる場所

○ 図書館で行う(設置する)意義はあるか？

他にやらないんなら、図書館でやってやろうじゃないか！

31

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・スクエア 運営から得た知見2

*注 福井個人の見解

【運営していく上で必要な視点】

- 大学の学生・校風・図書館に合っているか？
(各図書館の環境によってサービスは変わる！)
筑波大生は全体的に真面目で素直
アカデミックな内容で勝負
- 学生が求めているものは？
居心地の良さ、都合の良さ
適度な緩やかさと心地よい知的刺激
潜在的な要求を知ることが大事だが、困難
提案型の企画を行う、反応を見る、とりあえずやる

32

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・スクエア 運営から得た知見3

*注 福井個人の見解

「ラーニング・commons、学習支援は図書館で行う必要があるのか？」

結論: 現状の筑波大学では、図書館で行う意義がある。
と考えた。(学生、先生からの手応えがあり！)
学習支援の活動そのもの=本来の図書館の活動。
引き続き、質を高め学内の協力を得ながら、可能な限り行う。失敗しても、そこから大切な知見が得られる。そして、学生は意外と図書館の試みを見ている(アンケート結果より)

33

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・スクエア 実施成果

実施した成果は？

- (残念ながら)数値等では結果が出ていない
 - 学長や副学長など、大学幹部よりお褒めの言葉
 - 教員、学生からも『いいね!』の応援の言葉
- ↓
- 学生、教職員との知り合いが増え、コミュニケーションが広く、深くなった(ライティングの教員が見つかった！)
 - 持込み企画など相談に来る職員・教員・学生が増えた
 - やり続ける事が重要となった
(「何かある」図書館のイメージの定着)

34

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

ラーニング・スクエア 今後の課題

- ライティング支援セミナーの拡充
講師教員の増加、カリキュラムとの連動
大学院生等へのセミナー
- キャリア支援の模索(学習支援の拡充)
図書館でできるキャリア支援セミナーなど
- ラーニング・アドバイザーの活動の活性化
- プレゼンテーション・エリアの充実化
- 図書館内での協力・体制づくり

中央図書館以外での各館での学習支援実施の模索

35

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

最後に(2つのキーワード) 学習支援

*注 福井個人の見解

【ラーニング・commons】

- 中央図書館では、ラーニング・commonsという言葉より、「学習支援の実践」ということを重視している。
(=KaleidoSpace>ラーニング・スクエア)
- ラーニング・commonsは新しいスタイルであるが、その根底にあるものは、旧来からの図書館の機能と変わらない
- 新規に工事をして設置をすることができなくても、図書館の工夫と職員の汗かき次第では、新たな取り組みは可能
- 学習支援は長期戦。建物・什器の目新しさは最初だけ。
支援の内容の質を高めていく事、教職員の連携が必要。

36

University of Tsukuba

IMAGINE THE FUTURE.

最後に(2つのキーワード) **実学**

*注 福井個人の見解

【実学】

- 「図書館(情報)学は**実学**である」。
- 実学を「**実(まこと)**にする**学問**」としましょう!

【実学(実践して学んだ)で得た大きな知見】

- 事業(企画)を行う場合は、単独より共同事業(企画)
- 参加型事業(企画)は、大きな広報効果をもたらす。
- (「自分ごと」と人は動く/博報堂DYグループ)
- 図書館(職員)は Coordinator > Planner, Player
- 『**良い図書館は、良い利用者(学生、教職員)が作る。**』

37

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.


あなたなら、どんな学習支援を
図書館で実践しますか？

ご意見お聞かせください！！

38

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.

ご清聴、誠にありがとうございます。



ラーニング・コモンズ検討WG(H22-23年度):

渡邊雅子(主査)

嶋田晋

守谷美佐子


渡邊朋子

大曾根美奈

村尾真由子

福井啓介

熊淵智行(アドバイザー)



ラーニング・スクエア実施WG(H24年度):

渡邊雅子(主査)

嶋田晋

西島悠策

齋藤未夏

渡邊朋子

村尾真由子

福井啓介

細川聖二(アドバイザー)

39

University of Tsukuba IMAGINE THE FUTURE.